

平成 24 年 8 月 17 日

8 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産状況は、価格下落により生産意欲は極端に低下しており低調。入荷の減少が続く中で、スギ材は在庫確保の動きもあり、特に柱材の引合いが強まっている。ヒノキ材は入荷が急減しているにもかかわらず動きは鈍い。出材の減少で全般に反発に転じている。特に、スギ柱材は手当ても入り急騰しており、ヒノキ中目材も値戻しの状況。その他のスギ中目材やヒノキ柱材はまだ模様眺めの感が強く、先行き出材の減少が続くと騰勢が強まる気配。群馬の製材工場の操業は公共物件の受注でそこそこの稼働。スギの 4m 材に不足感。長期優良住宅ブランド化事業の県内割り当ては、72 棟で思ったより少ない。市況下落により官材のみの出材だが、価格は上向かない状況。

2. 米材

6 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 6.9%増の年率 76 万戸。米国丸太は、輸出向けの不振が続いており、出材も低調で価格は保合。カナダ丸太も同様に大手サプライヤーの生産調整が続く、伐採量は減少。相場はセカンドグロスが保合、オールドは強保合。ヒバ、スプルースともに伐採減少で不足状態が続く。産地の港頭在庫は、先月同様出荷は低調だが伐採制限を続けており、大きな変化なし。ウェアハウザー社の 8 月積み米マツ IS ソートは前月価格を据え置き。米材丸太の入・出荷・在庫ともに横這い。大型港湾製材工場の 7 月の荷動きは、中旬以降が良く、特に、関東以東の荷動きは好調。内陸部製材工場の荷動きは低調で、当用買いが続く。製材品の TLT(東京木材埠頭) 7 月入荷量は、41,860 m³で前月比 0.6%減。出荷量は同 6.3%減で、在庫も 0.9%減。産地情勢は、例年より気温が低く山火事規制がなく出材は好調で、当面供給面の不安なし。産地価格は、米国向け需要が堅調なため、産地価格も堅調に推移し、この傾向は暫く続く見込。

3. 南洋材

サバは天候の回復を受けて原木の出材が順調。現地工場は原木の値下げを要求しているが、伐採側は輸出優先の立場を崩さず、原木価格は依然高水準を推移

しており、緩やかな下落に留まる。断食の影響で生産性が大きく低下しているが、市況低迷のため日本バイヤーも発注量を減らしており、特に深刻な状況にはなっていない。サラワクの伐採は順調。発注量は低迷しているので市況は若干弱含み。世界的な景気低迷を受け、大手木材グループは生産調整を進めており、特に製材部門を閉鎖し、建材等採算性の高い部門に転換を進めている。PNG・ソロモンも出材は順調。中国からの引合いに支えられ横這いの状況。南洋材丸太の入荷は減少、出荷は横這い、在庫はやや減少。製材品の入荷は減少。原木の販売は、合板・製材用とも低迷。製材品の販売は依然低迷だが、一部棒類やデッキ用材は変わらず横這い。

4. 北洋材

ロシア極東はアムールからの出材が最盛期だが、近年ロシア材離れが進み日本向け配船は極めて限定的。中国向けバージ船の積み出しはそこそこ順調だが、価格上昇が見込めず、シッパーの弱気姿勢が続く状況。ただ、中国国内市況は底打ち感が出ており、8月以降は値戻しが予測される。シベリア地方は夏山がスタートしているが、国内製材メーカーは十分に丸太の手配が済んでおり、配船は休業の状態。富山港・富山新港の7月丸太入荷は7,384 m³(アカマツ 163 m³、エゾマツ 7,216 m³、カラマツ 5 m³)で、前月比 29%減。一方、製品は5,446 m³で同 51%減。丸太の荷動きは引続き低調。製材品も低調だが、アカマツ輸入完成品のうち良材に荷動きあり。出荷は低調で在庫は2~3ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも横這い。製材品は良材が下げ止まり。国内製材工場の採算状況はエゾマツ原板挽きはトントン、アカマツ丸太・原板挽きとも不採算。受注は引続き低調。

5. 合板

合板用国産材丸太は、引き続き弱含みの状態。しかし、メーカーは減産により原木の手当てを絞り、在庫の消化に努めているため、新規手当ては鈍い状況。南洋材丸太も同様で、メーカーの在庫は潤沢な様子。6月の国内合板生産量 20.6 万m³のうち、針葉樹合板は 18.7 万m³で先月を下回った。出荷量は 19.6 万m³で今年最高となり、生産量を上回ったが、在庫量は 2.7 万m³で依然高水準の状態。8月は長期休暇もあり、通常月よりは減産が見込まれるため、需給改善が期待される。針葉樹合板は、メーカー側の唱えた新値に届かず、綱引き状態が続く。しかし、減産継続と直需向けの好調な出荷を背景に、着実に在庫が減っているメーカーもあり、長尺合板等の品薄品目は値戻しが浸透し始めている状況。国産南洋材合板の荷動きは引き続き低調。針葉樹合板は旧値品のデリバリーが7月上旬まで続いたことで、前半の荷動きは好調だったが、反動で月末にかけて

鈍い状況。市場では当用買いに変化なく慎重な手当てが続く。輸入合板の荷動きは引続きまずまずの状態。輸入合板の先行きは産地との低位な成約状態が続く、港頭在庫も均衡していることから川上では秋口にかけて品不足への懸念。直近の入荷量に大幅な変化はなく堅調な展開が続く見通し。

6. 構造用集成材

原料・ラミナの入荷は、5月のコンテナ不足の影響で、多少の遅れが発生。現地の夏休みの影響は秋需と重なる恐れがあり、原料不足が懸念。国産集成材の受注、販売、荷動きともに上向きで在庫は少ない。第3QTRに10~15€の値上げが唱えられ、円安も加わったことから、現地フレートの値上げがそのまま反映されている状況。輸入集成材は為替のタイミングで、現地1,000~2,000円/m³の値上げ。地域ブランド化事業で物件に荷動きがあり、7月中旬から受注が増えメーカーの在庫は減少。全般に集成材は底値感から値戻しの方向で、RW梁桁はすでに値上げしたメーカーもある。

7. 市売問屋

構造材は、国産材・外材とも荷動き悪く低調。造作材は、国産材ではマンション・店舗用に小動き。外材は、現地挽きスプルス・ピーラ等が多少まとまって入荷したので、買方の引合いに若干目途が付いた状況。月1の記念市でも来場者は少なく、買い意欲は乏しく模様眺めの状況。活発なのはスプルス等良材の希少材のみ。買方の手持仕事量が少なく、盆休みに入ったような状況だが、一部で見積依頼が多くなっているところもあり、盆明けに期待したい。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、板割、ヒノキKD柱、土台いづれも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW間柱保合。造作材は変わらず。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。針葉樹合板・ラワン合板とも値戻し始まるが、荷動きは悪い。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、加工費・材料価格変わらず。ここに来て新築の見積が多少出てきたが、受注には至ってない。盆前の駆け込み需要がリフォーム中心に昨年より多い。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)